

# 東京の教育

復刊第二十二号 東京都教師会発行

(事務局) 横浜市都筑区茅ヶ崎南四ノ十四ノ一ノ三二〇

## 道徳教育(倫理教育)における

### 宗教的価値の継承の意義

松浦明博

私のライフワークの一つは、「目に見える現実的世界や物質的価値」から、「目に見えない霊的な世界や精神的価値」へのパラダイムシフトを教師自身が経験し、その姿を通して、相手自身の中にパラダイムシフトを惹起させることである。今回の原稿は、その線上にある。

### 魂の発見者ソクラテス

「大切なことは、ただ生きるのではなく善く生きること」、ソクラテスの有名な言葉であるが、「善く生きる」には、徳の生き方がそなわるように、魂が優れたもの、善きものになるよう気づかい努力すること、すなわち「魂の配慮」が重要であるとソクラテスは訴えた。彼は、金銭や地位のことばかりに気を使ひ、肝心の魂をでさるだけ優れたものにするのを忘れていたアテネ市民の姿と、それに気づかずにいる無知を批判した。そのため彼は、アテネ市民に対して産婆術(問答法)を行い、自らの無知を気付かせようとしたのである。

魂への配慮がなぜ重要であるのか。なぜな

ら「金銭から徳(善なる魂)が生じるのではなく、金銭その他すべては徳(善なる魂)によって善きものになる」とソクラテスは説く(1)。

つまり、金銭や地位がすべて悪というわけではなく、徳(善なる魂)の有無によって悪にも善にも使われるということである。それまで、おもに宗教的な世界観の中にあつた魂(神霊)、死後の世界にあつた魂(祖霊や死霊など)を、生きて働く生活の中にも見出し、人生をより良く生きるために、そして、社会をより良くするために、ソクラテスは「魂の配慮」の重要性を訴えたのである。このためソクラテスは、魂の発見者であり、倫理学の祖と評せられる。

ソクラテスなどかつての聖哲の実践を思い返すと、本来、哲学や真正な宗教の主たる目的は、悩める魂、迷える魂、病める魂を救済し、社会善化に繋がるものであることを感ずる。

(1) プラトン著、田中美知太郎訳 『ソクラテス弁明』(世界の名著8) 中央公論社

### 「魂とは？」の授業

「では、魂とはいったい何であるのか。」私が、『倫理』の授業における「古代ギリシャ思想」の単元で、必ず発する問いであ

る。

「根性」「信念」「負けない心みたいな」。生徒は、「〇〇魂」から想起される答を返す。

「では、魂と心はどう違うのかな。英語でも心と魂は単語が違う。心を英語で言うど？」

「マインド」「そうそう、マインドコントロール、マインドセットとか言うよね。他に？」

「ハート」「そう、ハートウォーム、ハートフルと言うね。では魂を英語で何と言うかな？」

「ソウル」「いいね！ソウルミュージックは、魂の叫び、なんて言うね。他には？」

「スピリット」「さすが！武士道精神のことを英語でサムライスピリッツと言うよね。」  
「言葉が違うということ、それぞれに意味がある。では、魂と心はどう違うのかな。」

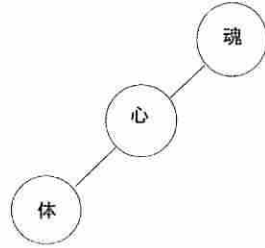
生徒はしばし考えた後、「心の奥にあるもの」「本心みたいな…」「つまり本当の心」「どんなときも変わらない心」「真実の世界」など答えるようになる。

「素晴らしい！いい線いってる。最高！」  
私は、生徒の答えの一つひとつを称揚した後、魂と心と体について、図を描いて説明する。

肉体(身体)の世界では、心で思ったことを表現する。お腹が空いたと思うから、手を伸ばして、ご飯を食べる。学校に行かな

きや、勉強しなきゃと思ってるから学校に来て、机に座り教科書を開いている。この場合、心は肉体を支配していると言える。しかし、心で、夜も遅いから寝なきゃと思っても寝られないとか、朝起きて学校に行かなきゃと思ってもベッドから出られない。勉強しなきゃテストが悪くなると思っても、ボーとしてたり、気が付いたらゲームをやっている。これはいったい何を意味するのだろうか。心で肉体を支配しているはずができていない。心に影響を与えている何か、心を支配している何かがあるのでは？

では心の奥の世界とは何か、それが「魂」である。本心でもあり、表面的には分からない内面の深いところにある秘めた心の奥の世界。それこそが真実の世界である。祈りとは、この魂から発せられるものであり、そうでなければ、おそらくは聖なる存在＝神には通じない。



アテネの政治家や芸術家など、いわゆる「知恵ある人」と評せられる人々 (sophist) は、口では、真理や善や美について立派なことを説いているが、実は、金銭の損得とか自分の名誉や地位のことばかり気を使っている。本心、心の奥底、つまり魂の世界をできるだけ優れたものにするのを忘れていた。

それに気づいたソクラテスは、自らの内なる声「daimonion」(魂、良心、神性) に従い、没落の一途にあるアテネの市民社会をより良くせんがため活動し支持を得た。しかし、いっぽうで、不満や批判の的ともなり、その結果、「アテネの神々を冒瀆し若者を墮落させている」との罪状で有罪となる。そして、死刑判決を受ける。彼は、裁判の不当を主張し逃亡を勧める多くの支持者の要求を退け、「善く生きる」ことを貫き、従容と死の床に就いた。魂は不滅を確信していたのである。彼の魂は、プラトンら弟子たちに受け継がれ、後のキリスト教とともに西洋思想の大源流となったのである。

今なお世界から争いや貧困、環境破壊が絶えないのはなぜだろう。愛や平和を説いても、頭や知識では分っているだけ。心でも一応そうは思っている。しかし、心の奥底では、不満や怒り、憎しみや嫉妬が渦巻いている。実のところ、自分や仲間達さえ良ければそれで良いと思っている。結局、真実の心、内なる魂の姿が、現象化しているのではないだろうか。

かく言う私は、本心から生徒・学生や家族・仲間を愛しているのか。何のために教師をやっているのか。幾度となく自身に問いかけ、内省と反省を繰り返して、教師のあるべき姿や志を魂に刻むようにしなければ真の教師とは言えないのではないか。自分の思い、言動が、彼ら彼女た

ちの「より良く生きること」「魂を善くすること」「真に幸福な人生」、これらの実現に少しでも、役立っているのか否かと。

(帝京科学大学) (会員)

日本語と外国語教育

佐々木 健

特にテレビ報道番組で、災害が迫り、生命の問題に関わる話題でさえも外来語が跋扈している。例えば「ハザード・マップ」を取り上げてみよう。英語では、ハザードとは、予測し得ない危険の意味を表す。しかし、視聴者は、その言葉を聞いて切迫感を持つだろうか。ほぼ否である。聞いても危険度や切迫感がしない。でも、その言葉が何遍も繰り返される。何時のテレビ番組であったか思い出せないが、危険を知らせる日本語を用いると意味が強く伝わるので、英語にしているという回答があった。また、体質的に、同じ意味を伝えるのに外来語を使うのを官僚が好むという発言をしているのを危機管理の講座を持っている教授から伺った。そして、その意識に危機感を持っていた。人の生命を守るのに、実質的に日本語を否定し、外来語を用いることで、災害を更に悲劇的なものにしていくことに今のマスコミは気づかないのであるだろうか。

これは、これだけ国際交流が盛んになっても島国根性の排外思想が全く改まっていないのではないだろうか。やはり、国語教育・日

本語教育に対する意識が希薄なのではないだろうか。幕末や明治時代の先進的学者の多くは、外国に出掛けても日本流の礼儀作法をそのまま通し、必要に応じて通訳を使つたが、日本人としての矜持を忘れなかつた。そして膨大な外来語を、培われてきた漢語と日本語を巧みに組み合わせ、日本語化してきた。今の中華人民共和国で使われている政治・経済の多くの漢字表現は、日本人によって翻訳されたものである。だから、知識人の中には、何故伝統を忘れ、あるいは棄てて外来語だらけになつてしまつた日本人の言語消化力の衰えに驚いている人もいるようだ。

ついに小学校四年生から英語教育が始まつた。だからこそ、その授業の中に、英語が世界に広まつた詳しい歴史、表意文字と表音文字の違い、そして英単語の意味と適切な用法まで教えるべきだと確信している。例えば「コーナー」の主な意味には、「話題」はない。そして、テレビの宣伝にしつこく使われる「アイテム」の主要な意味は、「項目」であつて「商品」とか「製品」の意味は最下位である。この論を疑う人は、英和辞典で調べてみるとよい。

ことほどさように、言葉を蔑ろにして感覚的に使うと国の歴史を読めない、漢字や諺も分からない人間が益々増えていく懸念が大いにある。その為にも、今や大学入試科目としてほぼ全滅した「漢文」の復活と、中学・高校での授業でも大いに再生復活すべきである

と確信している。

(会員)

### 戦前の中学国語の教科書を読む(十六)

「次の文章は、八波則吉著『現代國語讀本 巻五』(昭和十年修正七版)(現在の中学三年前期相当)所収のものである。今回ののは、前回の後半部分である。漢字、送り仮名は原文通り、読み仮名は適宜新たに加へた。」

#### 現代青年に望む(下) 澁澤榮一

(承前) 吾々の青年時代には漢學が盛んで、其の中に説かれてある謙讓の美德といふのを重んじたものであつた。私は謙讓の心掛は何時の時代にも必要だと思つて居るが、現今の新しい人達は一般に此の徳を重んじないで、寧ろ之に反對の傾向を持つ自己満足の思想に捉はれて居るやうである。此の流行からすれば、謙讓などといふことは時代遅れの思想と考へられるであらう。しかしながら謙讓は決して時代遅れでもなければ、間違つた道徳でもない。活社會に立ち、融和協力して他人の信用を得るには、どうしても此の徳が必要である。但し、謙讓と卑屈とは紛らはしいものであるから、取りちがへぬやうによく注意しなくてはならぬ。謙讓とは、解り易く言へば出しやばらぬ事である。早く世に知られようとして、みだりに自己宣傳をせぬ事である。それは無論、必要な場合にも、知つて居る事

を押隠して、知らぬ風を裝ふがよいといふのではない。たゞ平生つゞまやかに身を持つて、専ら修養を積めといふのである。

また現代の青年には、概して老人の言ふことをば「古臭い」「時代遅れだ」と云つて排斥する傾向があるが、これも大きな間違ひである。時勢の推移するにつれて思想も亦遷り變るのは當然であるが、倫理道徳は水の流のやうに、さう造作もなく移動するものではない。私は多年孔子の教を處世の教訓として遵奉して來て居る。無論二千四百年前に説かれた孔子の一言一句が、悉く現代に當て嵌まるといふ譯ではないが、しかしその根本精神は、人間生活の活教訓とするに足るべき立派な道徳だと思つて居る。大小の違ひこそあれ、老人の言ふことにも、やはり同様の取りどころがあるであらう。無論、舊習を墨守し時代に遅れるやうな事は、御互に大いに排斥しなければならぬが、さればと言つて、何でも新しくさへあれば良いといふやうな考で、能く吟味も咀嚼もせずに、新規の事物を採り入れるのは、最も慎まなければならぬ事である。

それから、現代の青年には、動もすれば空想に趨り過ぎる傾向がある。理想を高く立てるのはよいが、空想に趨ることは慎まねばならぬ。人間に理想がなかつたら、その人は單に生きんがために働いてゐるに過ぎなくなる。それでは人間としての價値がないので、殊に青年に理想がなかつたら、青年としての

存在の意義を有せぬことになるであらう。それ故青年が高遠の理想を抱くのは大いに結構なことであるが、**過つて**空想の域に陥み込まぬやう、返す返すも注意せねばならぬ。總じて、青年に取つて第一の肝要な點は元氣の横溢してゐるといふことであるが、現代の青年は伶俐になり過ぎた結果、一面に於て空想に趨る傾向があるとともに、他の一面に於て活氣に乏しい嫌ひがあるやうである。これは恐らく、餘りに目先の事ばかり考へる結果であらう。明治維新の大勢を馴致したのは、青年の力であつたではないか。尤も幕末時代と今日とは、時勢の異なつて居るから、同一に論ずる事は出来ぬが、青年の意氣はあのやうにありたいものである。此の意氣がなければ到底大いに伸びることは出来ぬ。唯くれぐれも注意すべきは、空想と理想とを取り違へず、遠大の理想を樹てて之に向つて勇往邁進すべき事である。又、**こゝで**特に注意すべきは、理想と實際とは必ずしも一致するものではないから、たとひ理想幻滅の場合に遭遇しても、決して失望落膽することなく、一層勇氣を奮ひ起して事に當る覺悟をすべきである。青年時代は思想の動搖し易い最も危険な時代である。此の時代に、もし自暴自棄に陥るやうな事があつては、一生を誤る事になるのであらう。それにつけても大切なのは修養で、平素修養を積んでさへおけば、如何なる場合にも其の方針を誤るやうな事がない筈である。

私は人間一生の中で、活力の最も旺盛な青年期及び壯年期の人達に最も多くの望みを囑する。凡べての仕事は是等の元氣激刺たる人達を中心となつて行ふべきであるが、さればと云つて先輩を無視することは宜しくない。青年及び壯年者は未來に生きるもので洋々たる前途を持つて居る。之に對して、老年者は未來には貧しいが、その代はり豊富なる過去を有つて居り、幾多の實際経験を積んで居る。此の實際の経験といふものは、成功・失敗いづれの経験たるに拘らず、後進者に對する生きた教訓で、机上の空論にまさること萬々であり、且つ金錢で購ふことの出来ぬ尊いものである。それ故青年諸君は勉めて先輩に接してその意見を敲き、之を參考資料として、着々と仕事をするやうに、而して前人の失敗を繰り返さずして立派に成功するやうに心掛くべきである。

青年の未來は國家の未來である。私は青年を愛し、國家を憂ふるが故に、此の老婆心切の苦言を呈する。決して言を好むのではない、此の老人の苦衷を諒として貰ひたいと思ふ。

(青淵訓話集)

(原註)

澁澤榮一 埼玉縣の人。子爵。實業家。昭和六年没。年九十二。

日本教師会教育研究大会について

本年度(令和三年度)の大会は大阪教師会の主管で今年八月の予定でしたが、武漢ウイ

ルス感染症の蔓延によつて中止になりました。その理由については「大阪の教育」最新号に記載されていますのでご覧ください。なお、「紀要 日本教育」は代替論集として発行される予定ですので、原稿のご準備をお願いします。締切は九月三十日(木)、体裁や原稿送付先等は昨年と同じです。

お願い

一、会費納入について

会員の皆様のご協力をお願いします。

年額 二千元

口座 「みずほ銀行」港北ニュータウン支店

店番号 743 普通預金 1330150

名義 佐藤健二

二、原稿募集について

「東京の教育」への会員の皆様のご投稿をお待ちしています。

字数は三千字程度以内でお願いします。ただしこれより長いものは数次に分けて掲載することもできます。

仮名遣いは古典現代いづれかに統一して下さい。また、写真や図版の掲載はご相談ください。

送り先は題字下にあります。また、メールの送り先は次の通りです。

事務局アドレス(佐藤)

komasato@juno.ocn.ne.jp